

牛群検定通信 No51

～平成25年度牛群検定の概況～

1 牛群検定の実施状況

平成23年の東日本大震災においては、東日本の酪農家を大きく減少させ、さらに近年では、飼料価格の高騰やT P P交渉などの社会情勢も加わり、大きく酪農家が減少しています。しかし、検定農家の減少は、酪農家全体の減少より緩やかであり、相対的には普及率は微増しています。

各都道府県別でみると、検定農家戸数の普及率では、鳥取県の83.1%を筆頭に、宮崎県が81.1%、鹿児島県、福岡県が70%以上、岡山県、北海道、沖縄県、熊本県において60%以上と高い普及率を示していますが、全国平均では49.8%に留まっています。検定牛頭数の普及率も検定農家とほぼ同様で全国平均では60.8%となっています。

2 305日乳量

平成25年の305日乳量は過去最高の乳量となり、全国9,406kg、対前年+120kgになりました。対前年で100kg以上の大きな伸びを示したのは、平成16年以来のことで、9年振りとなりました。特に北海道で大きく伸びて9,383kg、対前年+153kg、都府県は9,452kg、対前年+54kgとなりました。これは濃厚飼料給与量の増加、とりわけ北海道における増加が要因のひとつとしてあげられます。

3 繁殖成績

繁殖成績のうち分娩間隔は全国で437日と昨年から2日延びました。これは過去最高だった平成23年の438日に次ぐものです。都府県においては昨年と比較して同一の446日でしたが、北海道において432日と2日延びたことが要因となっています。

昨年より公表している分娩間隔の分布では、最頻値364日、中央値411日と、これらも同様に昨年よりも延びています。最頻値とは、1頭1頭の分娩間隔の頻度をカウントした際に364日と計算された個体が最も多いことを示しています。また、中央値とは全国の検定牛の半分の頭数の分娩間隔が411日以下であることを示しています。

4 その他（検定牛と検定未実施牛の能力差）

牛群検定の実施牛と未実施牛の能力差についても推計しました。平成25年の経産牛1頭あたり年間乳量においては検定牛は9,105kgであり、検定未実施牛と比較して2,306kgも多いものです。この差を40頭規模で計算すると乳量で約92トン、乳代で約810万円（乳価平均87.8円で計算）に相当します。牛群検定を実施している農家が牛群検定成績を活用することにより、検定未実施農家と、このように大きな能力差となって現れています。

当団では、牛群検定加入促進のための費用が半年間無料となる牛群検定の試行（乳用牛改良対策事業）を実施しています。もし、牛群検定を行っていない酪農家をご存知でしたら、ご紹介頂ければ幸いです。事業参加要件などの詳細は当団ホームページをご覧ください。「乳用牛改良対策事業」で「検索」